

V 「一人ひとりが充実感を持って生きるまちづくりとは」

～年齢層で問題点は違うのか？～

大西政寛

はじめに

今年度の地域づくり研究会の取り組み「小地域福祉活動の調査」として、ふれあいネットワーク事業に関する実態調査に取り組み、そのプレ調査として、地域活動の実態調査（聞き取り調査）を行った。その時にお話したのは高齢者であった。（対象は地域活動をしている人なので高齢者とは限らないが、実際に私が聞き取りした対象は高齢者だった）

また、私は、かつて青年層の社会参加の促進を担当していた。（教育委員会青少年課勤務時）当時の青年層の問題は、ニート。社会とのつながりの希薄さ。どうしたらもっと関わるか、生きる力をつけるためにはどうしたらよいか？を考えていた。

そこで、今年度聞き取りで話した「高齢者」と、かつて取り組んでいた「青年層」が抱えている問題について考えてみた。

1 「青年層」と「高齢者」、それぞれの課題

(1) 青年層の場合 — 「知らない」ことと「無力感」

青年層の社会参加について考えたことを以下に列記する。

① （外的要因として）活動が必要とされていない

絶対にやらねばならぬことがあれば人間は動く。ひきこもりの場合も、引きこもっている環境があるからだ、という面もある。

※人が動く例として、阪神淡路大震災時のボランティア活動

② 活動する内容がない

この場合の“ない”とは、わからないの意。どのような活動があるのか、社会との関わりやさまざまな経験がないため、どんな活動があるのか、どうやったらできるのかがわからず、活動のしようがない。

③ 活動する意欲がない

すでに“どうせ”というあきらめの感情を持っている。これは、成功体験がないためと思われる。

(2) 高齢者の場合 — それまでの「生き方」と「生きがい」

高齢者と話途中で感じたことを以下に列記する。

① 孤独感・・・仲間の重要性

趣味を持つこと。共に楽しむ仲間がいることの大事さ。家庭だけでなく、家族だけでなく話せる人がいるかどうか。

※今後は、家族のない高齢者が増えることが考えられる

② 生きがい

今までの知識や経験が社会から求められ、それに応えていくことで、生きていることの

充実感が持てる。また、社会全体としてもありがたい。

2 課題の共通項

〈あるべき姿は「暮らしやすく、生きがいのある生活」〉

- (1) 青年層に必要なもの—社会参加するための情報ときっかけ
- (2) 高齢者に必要なもの—生きがい。趣味や特技を作る・生かすための仕組みづくり
- (3) 共通するもの—「情報」、「きっかけ」、「活動の場」

3 目指す方向性 ～生きがいに関する切り口

- (1) やって見ないと始まらない

高齢者と話して考えたことは、かつて青年層に対して考えてきたことと同じではないか、ということ。

まず「知る」。そして「体験」し、自分にあっているものは、続ける。そうでない場合は、また「体験」する。この繰り返しである。

そのためには、まず「知る」ための情報。すでにやっている人や情報の届いている人は良い。届いていない人へどう届けるかが大事。だから情報の仲介役がいかにか情報を収集し、わかりやすく整理し、どのように伝えるか。なぜなら伝えようとする相手は情報を受け取る気がない場合が多いのだから。

そして「体験」。これは早いほうが良い。早いほうがより多くの体験が出来る。しかし、この世に遅すぎるということはないので、気軽に体験できる場が必要。

最後に、「知る」も「体験」も、きっかけがなければ始まらない。そのきっかけをつくるコーディネーターが必要だろう。

- (2) 高齢者への取材で感じた、生きがいに関する切り口

考え集う切り口として「食」—ひとりで食べるのは非効率だし寂しい。

健康面と仲間づくりとして「スポーツ」—無理であれば観戦でも良いと思う。

生きがいと仲間づくりとして「教養・趣味」—ともに語れる仲間づくり。

※以上の切り口は、青年層に対しても同様と考える。

4 まとめ

青年層に対してアプローチした時に最も感じたのは、成功体験の大事さ。「やればできる」という体験も持っている人と、「どうせ出来ない」と思っている人とでは、その時の物事への取組み（人生に対する姿勢）は大きく違う。だからこそ、一刻も早く成功体験を経験して欲しいと取り組んできたのだが、それは高齢者になっても同様の問題のようだ。

物事に対する積極的な姿勢、自ら社会と関わっていこうという意欲が、人を生かし世界を動かす。しかし現実には、多くの人を受け身（感情面での自発性のなさ「してやる」「やってもらう」など）で、世の中に対し不満を言う。本来は第三者的に不満を言うのではなく、自分が社会を動かすという主体性が大事なのだ。

一人ひとりが動き出す契機となる「場」と「仕掛け」が必要でなはないかと改めて思った。